

教委だより

No.433 

令和3年12月21日

編集発行 富山県教育委員会
発行人 教育企画課長

令和3年度 全国中学校体育大会

「全国大会で活躍した富山県の中学生」

富山県中学校体育連盟 理事長 有澤 桂

「関東の 蒼空へと放て 君の夢」のスローガンのもと、新型コロナウイルス感染防止対策を講じ、令和3年度全国中学校体育大会が関東ブロックで開催されました。本県からは、12競技に182名の選手が参加しました。大会では、水泳競技の中嶋碧選手が女子400m個人メドレー優勝（大会新記録）、同200m個人メドレー準優勝（県新記録）、ハンドボール競技男子の氷見市立北部中学校の準優勝をはじめ、3競技13種目において入賞を果たしました。

また、全日本中学生ホッケー選手権大会では、大谷中学校女子が3位、全日本中学生選手権競漕大会では、楡原中学校、大沢野中学校が複数種目で3位に入賞するなど、多くの選手が全国の舞台上で活躍しました。来年度は、北海道・東北ブロックで全国中学校体育大会が開催されます。本連盟ではさらなる選手の育成支援を進めてまいりたいと思います。



水泳競技女子 400m個人メドレー優勝
〃 200m個人メドレー準優勝
中嶋 碧 選手（城端中）



男子ハンドボール競技準優勝
氷見市立北部中学校

令和3年度 全国高校総体

「輝け君の汗と涙 北信越総体 2021」を終えて

富山県高等学校体育連盟 理事長 山本 一登

「走れ 北信越の大地を とべ 北信越の大空へ」のスローガンのもと、令和3年度全国高校総体が北信越5県と和歌山県で開催され、本県からは30競技に509名の選手が参加しました。

今回は2年ぶりの開催であると同時に、コロナ禍の中で多くの制約を抱えながらの開催となりましたが、地元開催となった女子ホッケーの3連覇をはじめ水泳飛込・競泳、弓道、フェンシング、バドミントン、相撲、アーチェリーなど、多くの競技で本県選手が健闘し、コロナ禍で混沌とした社会に勇気と元気、夢と感動を与えてくれたと感じています。

また、沢山の教職員や高校生の皆さんに高校生活動や役員・補助員（役員約900人、補助員約1,800人）として今大会を盛り上げ、支えていただきました。皆さんの各部署での工夫と努力が感染対策と大会運営を両立させ、大会を成功に導いたものと感謝しております。

コロナ禍において県内で4競技の全国大会を開催できたことは、今後の本県の高校スポーツ発展のためにも大きな意味があったと思います。今大会の成果を受け継いで、高校スポーツの振興につなげていきたいと考えています。

本大会の開催にあたり、多大なご尽力をいただきました学校関係者及び関係機関の皆様様に改めて心から感謝申し上げます。



高校生活動推進委員会



石動高校女子ホッケー部

Contents (主な内容)

- 令和3年度全国中学校体育大会 1p
- 令和3年度全国高校総体 1p
- 高校生とやま県議会 2p
- 「とやま親学び」研修会 2p
- 第26回富山県中学校文化祭 2p
- 第33回富山県高等学校文化祭 2p
- 令和4年度県立学校募集定員 3p
- とやま科学オリンピック 3p
- 永年勤続教職員等表彰式 3p
- 「高志の国文学」情景作品コンクール 表彰式 3p
- とやまの小・中学生ライフプラン教育について 4p
- 令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果 4p
- 夢の卵育成事業 4p
- 総合教育センターNOW 5p
- 令和2年度 児童生徒の問題行動・不登校等に関する調査 6p
- 学校給食とやまの日の取組 6p
- インフォメーション 7p
- 放送大学富山学習センター
富山県映像センター
富山県生涯学習カレッジ
富山県ひとづくり財団
- 富山県特別支援教育将来構想の策定について 7p
- 学校レポート（南砺市立福光中学校） 8p
- リレーエッセイ（東部教育事務所長） 8p

令和3年度「高校生とやま県議会」開催

高校生の主体的な政治参加意識や地域参画意識の向上を図ることを目的に、今年度も「高校生とやま県議会」を実施しました。7月21日の開会式では、県内の高校2年生40名の「高校生議員」に議員認定証が渡され、12月16日の本会議までの4回の活動において、株式会社POTETO Mediaの古井康介氏による講演や知事・県議会議員との意見交換等を通して政治参加の大切さを学びました。さらに高校生議員は5つの委員会に分かれて、「ワクワクとやまの創造」をテーマに、高校生の視点から県政に対する提案を協議、発表しました。



議会体験の様子

「とやま親学び」研修会を開催

「親学び講座」は、小中推進リーダー、小中推進スーパーリーダー、幼保推進リーダーによって、普及・啓発活動が行われています。それらのリーダーやPTAを対象として、6月、7月に県内4会場で「『とやま親学び』研修会Ⅰ」を開催しました。参加者のニーズに応じて研修できるように会場ごとに内容を変えました。



オンライン画像

また、7月、10月には、「『とやま親学び』研修会Ⅱ（スキルアップ編）」を開催し、大学教授等による家庭教育に関する講義を通して、推進リーダーとしての資質の向上を図りました。会場とオンライン参加のハイブリッドで実施し、講義の動画はホームページに掲載しています。

1月にも開催する予定です。子供たちの健全育成のためにも、多くの保護者の方に「親学び講座」に参加していただき、家庭の教育力の向上を図りたいと思います。



▲講義の動画はこちらから

第26回 富山県中学校文化祭

10月10日「創ろう未来と文化!届けよう輝く笑顔の花を砺波から!」のスローガンのもと、第26回富山県中学校文化祭が行われました。砺波市文化会館と市美術館で開かれ、県内の中学校と義務教育学校、特別支援学校の生徒が音楽や郷土芸能、意見発表など10部門で日頃の活動の成果を発表しました。その様子は、県内全ケーブルテレビで配信されました。



第33回 富山県高等学校文化祭

第33回富山県高等学校文化祭が「舞え 華やかに咲く私たちの創造」をテーマに、11月12日～14日を中心会期として、富山県民会館をメイン会場に開催されました。

感染症対策のため一部無観客で行われましたが、展示会場、ホールともに、高校生らしいフレッシュな感性と創造性に溢れ、情熱的なパフォーマンスや作品に来場者は魅了されました。昨年中止になった交流茶会も行われ、文化の祭典を心ゆくまで楽しむ姿が多く見られました。



工夫を凝らした砺波高校合唱部の発表



情緒豊かな八尾高校郷土芸能部の「越中おわら節」

令和4年度 県立学校募集定員

- ◆ 全日制6,378人、定時制約960人、通信制約300人、専攻科約160人を募集します。
- ◆ 特別支援学校の高等部及び高等部専攻科の募集人員は、約280人に訪問教育の若干名を加えたもの、並びに幼稚部は若干名とします。
 - 令和4年3月の中学校卒業予定者数は、令和3年3月に比べ127人減の8,910人の見込みであり、全日制課程の募集定員は、令和3年度に比べ92人減の6,378人とします。
 - 定時制課程の募集定員は、令和3年度と同様とします。
 - 通信制課程の募集定員は、令和3年度と同様とします。
 - 専攻科の募集定員は、令和3年度と同様とします。
 - 特別支援学校高等部及び高等部専攻科、幼稚部の募集人員は、令和3年度と同様とします。
 - 学科改編について、一部の商業科で学科名を変更します。

	募集定員	前年度比	備考
全日制課程	6,378人	-127人	富山商業高校、高岡商業高校で学科名の変更あり。
定時制課程	約960人	—	雄峰高校、志貴野高校で学科名の変更あり。
通信制課程	約300人	—	
専攻科	約160人	—	
特別支援学校 高等部及び高等部専攻科	約280人	—	訪問教育若干名を加える
特別支援学校 幼稚部	若干名	—	

※詳しくは、HPをご覧ください。(https://www.pref.toyama.jp/3003/kurashi/kyouiku/gakkou/teiin/r4teiin.html)

—むすかしいところがおもしろい— ~考えよう 楽しもう 科学の世界~

とやま科学オリンピック

今年で10回目を迎えた「とやま科学オリンピック2021」は、8月4日(水)に富山大学および県総合教育センターを会場として高校部門が、また8月7日(土)に魚津高校、富山中部高校、高岡高校、砺波高校を会場として中学校部門が開催され、664名の生徒(高校部門300名、中学校部門364名)が参加しました。富山の自然環境や歴史、文化等が出題されましたが、高校部門(物理・化学・生物分野)では実験・観察をとまなう課題もあり、真剣な眼差しで実験を行う参加者の姿が見られました。アンケートでは「実験の計画を立てて器具を作り、計測し、考察するという普段はできない経験ができた。今後は実験を精密に行うための知識・技能を身につけたい。」や「富山にはこんな素晴らしい点や隠れた魅力があるんだと知ることができてとてもよかった。来年もぜひ参加したい。」という感想も見られました。



高校物理部門(振り子の周期)

永年勤続教職員等表彰式

令和3年度永年勤続教職員等表彰式が、7月1日県民会館で行われました。県全体では、勤続年数30年が327名、勤続20年が108名、合計435名が表彰を受け、その代表者に表彰状が授与されました。

教育長は、式辞で「今日、教育県富山として全国から高い評価をいただいておりますのも、ひとえに皆様方の永年にわたるご努力とご熱意の賜物であり、心から感謝を申し上げます。また、皆様方の輝かしいご活躍を陰で支えてこられましたご家族の方々に対しまして、深く感謝の意を表します。教育県富山の良き伝統を引き継ぎ、本県の未来を担う子どもたちが健やかにたくましく成長していくためには、教育現場の第一線で活躍されている皆様方が、豊富な知識と経験を活かしつつ、広い視野と見識をもって、その能力を十分に発揮され、日々の業務に積極的に取り組まれることが何よりも重要であります」と謝意を表しました。

これに対して、深山慶太立山町立立山中央小学校長が、代表として謝辞を述べられました。



令和3年度「高志の国文学」情景作品コンクール 表彰式

今年で12回目を迎える「高志の国文学」情景作品コンクールの表彰式が10月27日(水)高志の国文学館で行われました。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、学校生活にも大きな影響が生じるなか、今回も、美しく豊かな富山の自然や風土の中で育まれた富山ゆかりの「高志の国文学」に触れ、心に残る情景や心情を表現した素晴らしい作品が数多く出品されました。表彰式では、知事賞・金賞を受賞した生徒に荻布教育長より賞状が授与され、代表として富山中部高等学校2年若木美来さんがあいさつをしました。



とやまの小・中学生ライフプラン教育充実事業

県教育委員会では、子供たちが富山で働き、暮らし、子育てするよさを知り、自分のライフプランを考えることができるよう、小学生・中学生ライフプラン教育用冊子の作成や「ライフデザインセミナー」（地域で活躍する方の講話）や「乳幼児ふれあい体験」の実施を通して、ライフプラン教育の普及・充実を図っています。

今年度、「ライフデザインセミナー」を実施した学校からは、「将来の職業選択時に自分の好きなことや得意なことを考えて選ぶと考えた子供が多かった」「働くことの意義や大切にすべきことについて考えさせることができた」などの報告がありました。また、9割を超える児童生徒が「ライフプランの大切さを考えさせられた」と回答していました。

新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、「乳幼児ふれあい体験」の実施は控えられていますが、今後も本事業を継続し、県内の小・中学生がライフプランについて考える環境を整えていきたいと考えています。

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果より

本年5月に実施された全国学力・学習状況調査について、8月に文部科学省より結果が公表されました。本県の各教科の平均正答率は、小学校国語、算数、中学校数学では、全国平均を上回り、中学校国語では平均正答率が全国と同等となり、全体として一定の学力水準が維持された結果となっています。一方で、国語は全ての教科の土台となるものであることから、今後一層の指導の改善を図る必要があります。

県教育委員会では、結果を分析して成果と課題を報告書としてまとめ、各学校に配布したところですが、今後とも市町村教育委員会と連携しながら、全ての小中学校が授業改善や学習習慣、生活習慣の定着等の学力向上策に、主体的、積極的に取り組むことができるよう支援していきます。

	小学校6年		中学校3年	
	国語	算数	国語	数学
本県平均正答率	67%	73%	65%	59%
全国平均正答率	65%	70%	65%	57%
R3 (全国との差)	(+2)	(+3)	(±0)	(+2)



夢の卵 育成事業



(富山県ひとづくり財団)

「将来こんな職業に就きたい」という「夢の卵(将来の夢)」を募集し、優秀者を、その道の専門家のもとへ派遣しています。17回目となる今年度は、小中あわせて1,829作品の応募があり、その中から4名が、夏休み期間中、短期入門しました。

小学生の部 2名 (応募数674作品)



マグロの養殖研究者になりたい

佐々木 映瑠さん (高岡市)

養殖の研究や環境問題に興味を持ち、近畿大学水産研究所富山実験場へ入門し、養殖魚の見学や顕微鏡での観察、養殖施設の管理を体験しました。



顕微鏡でプランクトンの観察



山や自然の素晴らしさをたくさんの人に伝える山岳ガイドになりたい

二宮 由衣さん (富山市)

山岳ガイドに興味を持ち、国立登山研修所と立山カルデラ砂防博物館へ入門し、山岳ガイドとの対話をしたり立山の自然、登山技術について学んだりしました。



山岳ガイドと一緒に登山

中学生の部 2名 (応募数1,155作品)



農作物品種改良研究者になりたい

経国 優珠さん (高岡市)

品種改良に興味を持ち、富山県の農業研究所へ入門し、イネの育種の仕事について受粉やマーカー育種を通して学ぶと共に、食味試験や生育調査なども体験しました。



イネの受粉を体験



野球の楽しさを伝えられるアナウンサーになりたい

吉越 帆高さん (富山市)

スポーツの楽しさを伝えたいという気持ちを持って、NHK富山放送局へ入門し、アナウンサーの仕事や心構えを学び、実況をTVで見た後にその準備や気を付ける点について懇談しました。



NHK富山放送局の柴田アナと

総合教育センター NOW

教育研修部 「振り返りシート」の活用

教育研修部が主管する研修の中心となるのが、初任者研修会を始めとする年次研修です。年間を通じ、総合教育センター等を会場として多くの研修が実施されています。

それぞれの研修会終了時には、その日の研修を振り返り、シートに記入する時間を設けています。本年度から、各回の研修のねらいにどれだけ近付くことができたか、研修で学んだことを翌日からどのように活かすことができるかに視点を絞り、考えを整理し、書き留められるように形式を改めました。また、受講者の利便を図るため、QRコードを読み取り、受講者各自が帰校後に入力し提出することもできるようにしました。

初任者研修や中堅教諭等資質向上研修等では、各回の研修の振り返りとは別に、富山県教育委員会が策定した『教員等の資質向上のための指標』を基に、研修を通じて身に付いた資質能力を顧みる機会として、キャリアごとに求められる資質・能力の定着について自己評価する機会を設けております。

折に触れ、富山県教育委員会が策定した『教員等の資質向上のための指標』を確認され、センター等で実施される各種研修に参加される際の参考としていただければと思います。『教員等の資質向上のための指標』は富山県総合教育センターホームページよりダウンロードすることができます。



初任者研修会の様子



「振り返りシート」の入力画面

科学情報部 「ありがとう、3代目サイエンスカー」

科学情報部では、科学技術教育普及活動の一環として「サイエンスカー訪問活動」を行っています。

本活動は半世紀以上の歴史をもち、科学技術教育の普及推進をねらいとして続いています。サイエンスカーというマイクロバスに実験器材を積み込み、学校に出向いて出前授業を行うといった活動で、全校児童が120名以下の小規模小学校・義務教育学校前期課程を対象としています。

活動を始めた昭和43年から昨年までの53年間に、訪問した学校は延べ2,150校、参加児童数は延べ211,969名となりました。昨年度は、コロナウイルス感染症の影響もあり、例年に比べ訪問校も少なめでしたが、895名の児童と楽しみながら実験活動を行うことができました。

現在のサイエンスカーは4代目で大型バンタイプのワゴン車になりました。3代目は平成9年から今年まで24年もの間、たくさんの学校を訪問してきましたが、今年の8月で引退となり、これでマイクロバスの歴史は一旦終わりとなります。車種は変わりますが、サイエンスカーとしてこれからも富山県内の学校を訪問しますので、ぜひ、ご活用ください。

訪問活動で行う学習内容については、富山県総合教育センターホームページからリンクしている「デジタル理科室」で公開しています。併せてご活用下さい。



初代（昭和43～52）



2代目（昭和53～平成8）



3代目（平成9～令和3.8）



4代目

教育相談部 特別支援学級等新任担当教員研修会

この研修会は、特別支援学級又は通級指導教室を初めて担当する小学校・中学校・義務教育学校の教員を対象に行う全5回の研修です。今年度は、96名の方が受講しました。研修では、「特別支援教育の教育課程」「障害のある児童生徒の就学について」「個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用」等の講義や協議を通して知識を深めたり、情報交換を行ったりする中で、それぞれの日頃の悩み等も共有しました。

第2回の協力校における研修では、小・中学校の特別支援学級、通級指導教室を担当する先輩の先生方の授業をビデオ視聴して、授業や支援の参考となる視点を学んだり、日頃の授業を振り返ったりしました。

第5回は、各受講者の勤務校での研修となっており、学級経営や障害の状態に応じた指導の実践について指導助言を受けました。

受講者からは、「初めてで不安だったが、アドバイスや他の受講者との意見交換で指導・支援の方向性をもつことができた」「実践に対する意欲が高まった」という声が聞かれました。



第2回 協力校における研修
（通級指導教室部会）



第3回 協議「個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用」



令和2年度 児童生徒の問題行動・不登校等に関する調査

— 暴力行為・いじめ・不登校 —

文部科学省の「令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果（県内国公立学校分）が、10月に公表されました。<文部科学省の公表データのみ記載>

【暴力行為の発生件数】

() は、本県・全国の1,000人当たりの発生件数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校	合 計
R 2	530 (10.8) (国6.5)	214 (8.0) (国6.6)	25 (0.9) (国1.2)	769 (7.5) (国5.1)
R元	554 (11.1) (国6.8)	283 (10.4) (国8.8)	63 (2.2) (国2.0)	900 (8.5) (国6.1)

暴力行為の発生件数は、R元年度と比べ、全校種で減少しました。1,000人当たりの発生件数は、小学校・中学校で全国平均を上回っており、高等学校では下回っています。

【いじめの認知件数】

() は、本県・全国の1,000人当たりの認知件数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校	特別支援学校	合 計
R 2	739	379	83	11	1,212 (11.6) (国39.7)
R元	1,049	526	154	31	1,760 (16.5) (国46.5)

いじめの認知件数は、R元年度と比べ、全校種で減少しました。1,000人当たりの認知件数は、全国平均を下回っています。

【不登校児童生徒数】

() は、本県・全国の1,000人当たりの不登校児童生徒数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校
R 2	556 (11.4) (国10.0)	899 (33.7) (国40.9)	410 (15.5) (国13.9)
R元	425 (8.5) (国 8.3)	846 (31.1) (国39.4)	480 (17.5) (国15.8)

不登校児童生徒数は、R元年度と比べ、小学校・中学校で増加し、高等学校で減少しました。1,000人当たりの人数は、中学校で全国平均を下回り、小学校、高等学校は全国平均を上回っています。

日ごろから規範意識の醸成や自己肯定感の向上、教育相談体制の充実等の取組により、問題行動や不登校の未然防止を図るとともに、児童生徒をきめ細かく見守り、家庭や専門家、関係機関と連携して早期発見・早期対応に努めることが大切です。

学校給食とやまの日(氷見市)の取組

県教育委員会では、「富山県食育推進月間」に合わせて11月中の一日または数日を「学校給食とやまの日」とし、県産食材を積極的に使用した学校給食を実施することとしています。県内の各小中学校では、市町村や学校給食関係者の協力を得ながら、地域の食材をふんだんに取り入れた、特色ある献立が提供されています。

ひみ寒ぶり、氷見いわし等漁業の町として知られる氷見市では、地元の魚が日々の給食に登場します。11月18日(木)の「学校給食とやまの日」には、氷見漁港で水揚げされたシイラをメインに、小松菜、さつまいも、白ねぎ等を使った「米粉パン、牛乳、シイラのカレー揚げ、小松菜のアーモンド和え、豆乳味噌シチュー」の献立が提供され、市内の児童生徒は、感謝をしながら氷見産の味覚を味わいました。

比美乃江小学校では、毎日お昼の放送で、給食委員が一口メモとして地場産の食材や栄養について紹介する活動が行われています。学校給食を通して、生産者の工夫や努力について理解を深め、地元の食材を身近に感じることで、自分の住んでいる地域への愛着を育む時間となっています。



給食の時間の様子



献立の様子



お昼の放送の様子

インフォメーション

📍 場所 📄 内容 👤 対象 👥 募集人数 📄 応募要領
📄 募集締切 👤 参加料 🌐 ホームページ 📞 問い合わせ

入学生
募集

放送大学富山学習センター

☎0766-56-9230

令和4年度4月入学生の募集

📅 締切 3月15日(火) 必着 (インターネット出願可) ※放送授業開始: 4月1日(金)

📌 放送大学は、教育学・心理学系の科目を多数開講しています。現職のまま、上位免許や特別支援学校教諭免許等を取得する際に必要な科目の一部又は全部を履修することができます。入学時期は、4月と10月の年2回です。



参加者
募集

富山県映像センター

☎076-441-8455

富山県視聴覚教育研修会

📅 期日 令和4年2月3日(木)

📍 富山県教育文化会館 5階

📌 ①映像教材等の紹介と活用例

②講演「主体的・対話的な学びを育む一人一台端末活用」(予定)

講師 金沢学院大学 文学部 教育学科 講師 山口 眞希 氏

詳細は各学校に文書でご案内します。

🌐 <https://www4.tkc.pref.toyama.jp/eizou/>



令和2年度 開催風景

自遊塾
県民教授
募集

富山県生涯学習カレッジ

☎076-441-8401

令和4年度県民カレッジ自遊塾 県民教授募集

📅 期日 令和3年12月中旬～令和4年1月14日(金) 必着

📍 県民カレッジ本部 ☎076-441-8401

📌 自主的に企画・発表したい、学んだことを生かして教えたい、学びを深め交流したい、あなたも県民カレッジ自遊塾の県民教授(ボランティア講師)になりませんか。

🌐 <https://www4.tkc.pref.toyama.jp/toyama/>

自遊塾

県民教授募集

利用
案内

公益財団法人富山県ひとづくり財団

☎076-444-2000

富山県教育活動応援者ネット ～T-EACHネット～

📌 学校現場での経験や特技を生かしたい退職教員等を登録してあるサイトです。教員の負担軽減や子ども達への活動支援に積極的にご活用ください。(県教委委託事業)

🌐 <https://toyama-teach.jp/>



T-EACHネットホームページ

富山県特別支援教育将来構想の策定について

特別な教育的支援が必要な子供や保護者を社会全体で支え、一人一人が輝き社会で活躍できるための「富山県特別支援教育将来構想」の策定に向け、学識経験者や医療、福祉、教育、就労の関係者、保護者代表などを委員とする検討会を開催しています。

「共生社会の実現に向けた連続性のある多様な学びの場の整備」「多様な教育的ニーズに対応できる教員の専門性向上」「企業と学校、家庭が一体となった就労支援」などの六つの視点で検討を進めており、特別支援学校の現地視察や特別支援学校等で学ぶ児童生徒からの意見を踏まえ、パブリックコメントを経て、本年度中に富山県総合教育会議で取りまとめることとしています。第1回検討会(8/11)及び第2回検討会(11/15)の議事録や資料は、県のHPに掲載してありますので、ご覧ください。

学校におじゃまして取材し、みなさんに各校の取組の様子をお届けします。

学校レポート

「人間尊重の精神を基盤として、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を目指す」

南砺市立 福光中学校

福光中学校生徒会マスコット「光カン」



南砺市立福光中学校は、昭和22年4月、福光町4か村学校組合立福光中学校として創設され、平成29年度には創立70周年を迎えました。長年、生徒の国際交流に力を注いでおり、昭和59年以降、中国浙江省紹興市に中学生友好訪問団員を派遣しています。(R2. R3は中止)

取材当日、校舎に入ると、息の合ったハーモニーと拍手が聞こえてきました。生徒たちは週末に行われる学習発表会に向けて、合唱練習や総合的な学習の時間に調査したことをタブレット端末を使って発表する練習などに励んでいました。

全国に先がけ「自啓教育(自己啓発教育)」に取り組んだ地域でもあり、教科教室型オープンスペースが各フロアにあります。各教科の学習に必要な図書資料や新聞などが整備されており、生徒が主体的に学びに向かうための環境づくりがなされていました。



チーム担任制による互見授業・校内研修

南砺市では令和2年から「チーム担任制」を全小中・義務教育学校に導入しています。福光中学校は、各学年の教員がチームとなり、朝の会や給食指導、「特別の教科 道徳」等でローテーションを組んで指導を行っています。チームで生徒の指導にあたることで若手教員がベテラン教員から指導法を学ぶことができたり、学年で計画的に年次休暇を取得できたりするなど、教員の資質向上や働き方改革にもつながっているとのことでした。

どの先生方も生徒の活動を温かい眼差しで見守りつつ、生徒一人一人に寄り添って優しい笑顔で話しかけている姿が印象的でした。



中国紹興市文瀾中学と友好交流

リレーエッセイ

GO HOMOONで働き方改革

東部教育事務所長 豊田 高久

「GO HOMOON」とは、本所のチーム3Tが生み出した合言葉で、「満月と新月の日には、定時退庁をしよう」という意味があります。GO HOME と MOON をかけた遊び心と、月の満ち欠けに心を動かすなど、季節感を感じながら潤いのある生活をしようという思いが込められています。そして、「本を読ムーン」「趣味に打ち込ムーン」「お酒をたしなムーン」など、それぞれのマイムーンを洒落て紹介し合っています。

チーム3Tとは、talk & think & tolerance をモットーに、「お互いを尊重しながら、自由に意見を出し合える組織づくり」を考える集まりです。特に tolerance は直訳すると「寛容」ですが、「創造的な仕事ができる組織に共通するのは、心理的安全性が高いことだ」と、あるセミナーで学んだことを共有し、柔軟に考えていこうという心がけを示した言葉です。

そして、もう一つ、業務改善案を考えるチーム3S(speedy & slim & smart)があり、電子決裁の推進、電子ファイルの効果的共有、仕事の段取りを早期に上司と確認し合う「相談テーブル」の導入などについて意見を出し合っています。

などと格好をつけてはみましたが、どちらのチームもできたてのほやほやで、その成果はまだまだ見えません。今後、働き方改革の先達である学校現場からの情報も生かしながら、所員の知恵を集め、少しの遊び心を潤滑油にして、これまで以上に働きがいのある職場を、みんなでつくっていきたいと思っています。



■執筆者プロフィール

富山市出身
富山市立保内小学校長、富山市教育委員会・学校教育課長、同・事務局次長、東部教育事務所次長・管理課長を経て令和3年4月から現職